

「自己責任」の健康革命は この一冊から始まる

「健康自立力」発刊に寄せて

EM開発者 名桜大学教授 琉球大学名誉教授 比嘉照夫



「健康自立力」発刊に寄せて

この本はユーモアに満ち溢れ、本当にためになる本です。タイトルの「健康自立力」も独創的であり、「元気で長生きしたいなら発想の転換をしよう」という極意を伝えているからです。

この本を読むと「日本人の常識は世界の非常識」であることもよくわかりいただけますが、日本人はお上の命令に従順に従うようによく教育された国民であり、科学という宗教が大好きであり、勉強好きの無責任が世の中を支配していることがよくわかる日本人論でもあるのです。

その結果、責任は常に相手にあり、責任追及型社会となり、責任追及を逃れるため、ついには自己の健康に関する責任も放棄し、病気になること多くの医学書を読み、病気が治らないのは医学の責任と思いがこもっています。また、医

学書に難病と書かれたり、難病と診断されると効果がない方法を必死に試し、薬の副作用で本当に難病になつてしまふ人々が増えて、今は難病だらけです。

いまや日本の医療費は34兆円を超え、このままいけば40兆円も射程距離にあります。この数値は現在の実質税収の90%内外で、現在の医療制度は破綻することが目に見えています。総無責任国家の日本、責任追及型社会となった日本は、想像を絶する大リストラが待ち受けているのです。

この難局を乗り切るには、人生をまっとうするために必要不可欠な健康管理を自己の責任で行うことです。田中佳先生の著書には、その極意が書かれており、厚生労働省がこの本を全国民に読ませ、その内容を徹底して実行させれば歴史的な快挙になることは間違いないありません。しかし科学という宗教がそれを否定してしまうのが我が国の構造なのです。

この本の極意を支えるEM（有用微生物群）の原理は30年前に見られ、28年前から普及に入り、その安全性や再現性は世界中で確認され、農業や環境及び健康はもとより、土木建築、省エネ、機能性材料等々あらゆる分野に応用されるようになってきました。

EMも当初は科学という宗教界から、科学的ではないという大弾圧をうけましたが、今ではタイ、コロンビア、エジプトをはじめ多くの国々において国家主導での普及がされるようになっていきます。昨年までに世界150余の国々に広がり、海外のEMの生産工場も50余りとなり、EMの学部や学科も作る大学も続出し、日本初の国際スタンダードになっています。

EMの効果は改めて述べるまでもありませんが、抗酸化作用と非イオン化作用と対象物にエネルギーを賦与する3次元の触媒的な波動によるもので、自然界においては蘇生の系です。EMを空気や

水のごとく使うEM生活を徹底すれば、その使われた範囲は蘇生力が強くなり、すべてのものは健全になります。この蘇生の系をシントロピーと称していますが、エン

トロピーとは対極にある概念であり、従来はオカルトとかマジカル分野で評価され、エントロピーの法則に従うこれまでの科学という宗教界では毛嫌いされていた領域です。

EMを使ったが効果がなかったという話もないわけではありませんが、それは効果がでるまで使わなかったというだけのことです。EMを効果的に使うことは、すべて使う人の責任であり、そのために誰でも安く簡単に増やせる方法を公開していますので、論より証拠です。

病気は微生物の汚染から始まり、重金属や化学物質、各種の有害電磁波と生活の歪みやストレスの総和が連動して遺伝子(DNA)が正常に機能しなくなっ

た場合に発生しますが、それらはすべて、日常生活の食や環境や生き方に対応する歪みの総和として理解する必要があります。

すなわち、健康であった人が病気になるということは、生き方の姿勢を問われることであり、すべて自己責任に帰属するものなのです。責任追及型社会においては、他人の責任は追及するが健康や生き方に対する自分の責任を追及する人は極めて少数派で、すべて役所や医学会や他人の責任と思っている人が大多数です。

EMは健康で幸福度の高い社会をつくるための社会運動として、多くのボランティアに支えられ今日に至っています。その基本的精神は自己責任と社会貢献を連動し、安全で快適、低コストで高品質、持続可能であることを原点に高度情報共存共栄社会を築きあげることが目的としたものです。

田中佳先生の著書は、健康という分野でEMの理にかなったもの

であり、自己責任による健康革命に大きく寄与するものです。一人でも多くの人に活用してもらいたい本だと思えます。

※1 シントロピー
比嘉教授が提唱する、エントロピーとは逆の現象。エネルギーを失った無秩序で散乱した状態の物質にエネルギーを与え、元の有用かつエネルギーを持った物質に甦らせる現象。

※2 エントロピー
物質の持つエネルギーは個々に決まっており、有用な物質もエネルギーを放出するに従い、バラバラになり、次第にエネルギー持たない無価値で無秩序で散乱した状態に変化していく現象。通常、エネルギーを持たない無秩序な状態になってしまった物質をもとのエネルギーを持った状態に戻すことは不可能とされている。

名桜大学 教授 比嘉 照夫氏

1941年、沖縄県生まれ。EMの開発者。名桜大学教授、国際EM技術研究所所長。琉球大学名誉教授。アジア・太平洋自然農業ネットワーク会長、(財)自然農法国際研究開発センター理事、NPO法人地球環境・共生ネットワーク会長、農水省・国土交通省提唱「全国花のまちづくりコンクール」審査委員長。著書に「地球を救う大革命」「甦る未来」(サンマーク出版)、「新世紀EM環境革命」(総合ユニコム)、「微生物の農業利用と環境保全」(農文協)など多数。

